

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2013

課題番号：21243032

研究課題名(和文)旧産炭地のネットワーキング型再生のための資料救出とアーカイブ構築

研究課題名(英文) Archiving and Salvaging of Former Coalfield Resources toward its Regeneration

研究代表者

中澤 秀雄 (Nakazawa, Hideo)

中央大学・法学部・教授

研究者番号：20326523

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,200,000円、(間接経費) 10,260,000円

研究成果の概要(和文)：世界(記憶)遺産という側面から、あるいはポスト3.11のエネルギー政策という観点から「石炭ルネサンス」と言うべき状況が生まれているが、これを先取りして我々産炭地研究会は、「炭鉱の普遍性に基づく産炭地研究・実践の国際的なネットワーキング」を展望しながらも、まずは資料の収集整理という基礎固め作業を継続してきた。夕張・釧路の個人宅から炭鉱関係資料をサルベージして整理目録化を進行させていることを筆頭に、多数の資料整理・目録化に成功した。ネットワーキングの面では、全国の博物館・元炭鉱マン・NPO等と関係を確立し、主要な産炭地を訪問して資料整理・研究の面でも協働した。

研究成果の概要(英文)：We worked together for the networking of scholars and practitioners who are related to coal industry, coalfields and its regeneration across the borders. To establish a knowledge infrastructure required for the cooperation, we salvaged materials and resources related to mining local history, which were sometimes just abandoned. Also important was indexing and digitizing of collected materials, in accordance with archivists and curators in main coalfields of Japan. These were preparatory and essential efforts towards comparative coalfield study yet to be tackled with in East Asia.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：産炭地 鉱山研究 アーカイブズ 地域再生 資源 エネルギー

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトは、実績を挙げてきた常盤旧産炭地の総合研究を、北海道空知など国内類似地域との比較へ、さらに英国南ウェールズとの協力のもとに国際比較へと、広げていくための基盤作業であった。研究分担者の嶋崎・澤口は、正岡寛司・藤見純子両氏の監修の下に、早稲田大学が維持してきた常盤炭砒との協力関係を活用して、当地の炭砒離職者ライフコース研究を10冊におよぶ報告書にまとめていた。いっぽう中澤・大國・西城戸・新藤は、住民運動や地域再生に関する研究歴を土台にし、札幌学院大学 SORD データアーカイブで引き受けた布施鉄治調査コレクションを媒介にして2006年前後から北海道空知の旧産炭地研究を開始していた。さらに2007年以降には、比較対照群としての英国南ウェールズ地域との関係を築いた。常盤グループと空知グループは2008年7月に、分担者のひとり玉野和志の仲介により出会い、国内旧産炭地とその再生に関する比較研究の必要性について合意し「旧産炭地研究会」を立ち上げ、現地視察・共同研究を開始していた。また、興味を共有する大学院生の全国ネットワークを築きつつあった。本課題は、以上の協力関係のもとに議論され合意された、「旧産炭地研究会」キックオフ期間5年における研究であり、散逸の危機にある空知の産業遺産資料を網羅的に救出統合し、地域再生を目指すアーカイブ学的成果を産出することを目的とした。平行して国内旧産炭地の研究者・実践家のネットワークを確立し、次の5年間で本格的な旧産炭地の比較歴史社会学へと移行できる態勢を整えることも目標だった。

2. 研究の目的

(1) 旧産炭地における炭砒遺産を通じた地域再生に関する調査研究および実践

(2) 炭砒社会とその後のコミュニティに関する社会調査を通じた、各炭田の歴史的経路に関する国際比較

(3) 「20世紀資本主義の証言者」としての旧産炭地の人々の生活史を発掘し、集合的記憶を伝承していく、

以上3つの使命を追究することを長期的な目的としている。

3. 研究の方法

(1) 資料の探索、目録化、サルベージ、電子化による研究基盤の確立

(2) それら文献情報に加えて関係者の聞き取りによる重層的な情報収集

(3) 炭砒離職者に関しては様々な手法を開発しながら手づるを探し追跡作業を継続

(4) 関係主体との協働や地道な広報・営業活動による更なる資料発掘や課題発見

下記の『JAFCOF 活動記録 2009-2013 付・文献目録』および『炭砒労働の経験とキャリア 夕張炭田を中心に』等に、詳細な経過報告を収録し、上記の諸方法論についても述べている。

4. 研究成果

本課題名が表現している二つの目標、(1) 散逸の危機に瀕している産炭地資料のサルベージ、(2) それに伴う産炭地のネットワークおよび産炭地研究の再生、は5年間で当初の目論見以上に進展したといえる。産炭地で段ボール100箱以上の資料を救出した他、『JAFCOF 活動記録 2009-2013 付・文献目録』としてまとめた研究成果報告書に収録したように、整理されていなかった6つのコレクションについて資料目録を作成した。また各地の主要な石炭関係博物館と協働するようになり、鉱山研究会や全炭博研: 全国石炭産業関連博物館等研修交流会においてパートナーとして認知された存在になっている。具体例として、分担者の嶋崎は2012年11月24日の全炭博研長崎大会で講演を行った。また中澤は2013年2月9日に東京国立博物館で開催された「山本作兵衛シンポジウム」においてコーディネーターを務めた。その他、関係主体と協働して JAFCOF が地域で主催したイベントや報告会は数多く、地元新聞等で取り上げられている。直近では2013年11月30日に、岩見沢で「空知のヤマの女性たちが語る集い」というシンポジウムを主催、市民と意見交換を行った。それに先立つ4年間で主催した4つのシンポジウムについては、下記の『JAFCOF 活動記録 2009-2013 付・文献目録』にチラシ等を収録してある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計20件)

1. 玉野和志 2013 「資本主義世界経済の転換と地域政策の課題」『大原社会問題研究所雑誌』656, 1-18 (査読有)
2. 澤口恵一 2013 「イタリアの炭砒都市カルボニア その発展と衰退」『大正大学研究紀要』99 輯.418~434 (査読無)
3. 森直子、島西智輝、梅崎修 2013 「日本の経営の海外移転 アジアにおける日本生産性本部の活動」『企業家研究』10, pp.1-19. (査読有)
4. 島西智輝 2013 「1950~70年代半ばの日本における未利用天然資源の活用 石炭産業の事例」『香川大学経済論叢』84-4, pp.241-268. (査読無)
5. 木村至聖 2013 「生活戦略からみる炭砒社

会像の再考 北海道岩見沢市朝日町における「出面取り」の事例から」『甲南女子大学研究紀要(人間科学)』49, pp.121-31. (査読無)

6. 嶋崎尚子・須藤直子 2013『『最後のヤマ』閉山離職者の再就職過程 太平洋炭礦と釧路地域』『地域社会学会年報』25, pp.109-125. (査読有)
7. 嶋崎尚子 2013「石炭産業の収束過程における離職者対策」『日本労働研究雑誌』12月号 (No. 641) (査読有)
8. 中澤秀雄 2012「炭鉱資料をどのように残すか：産炭地研究会とその活動」『鉱山研究』89: 11-19. (査読無)
9. Hideo Nakazawa, 2012"Japan's Coalfields in Context: Undermining the Miracle, Challenging the Obliteration", 『法学新報(中央大学法学会)』119(1・2): pp.1-25. (査読無)
10. 中澤秀雄 2012「労組と労働政治の日本の展開を考える：日本炭鉱労働組合の盛衰を事例に」『白門』64(5): pp.44-56. (査読無)
11. 島西智輝 2012「高度成長期日本における中小炭鉱合理化対策」『三田商学研究』54(5): 91-110. (査読無)
12. 嶋崎尚子 2011「石炭産業の終焉過程における常盤炭鉱 KK 閉山タイミング」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』56: 33-46. (査読無)
13. 澤口恵一 2011「石炭産業の衰退と漸次的撤退の戦略-常盤炭田の事例から」『大正大学研究紀要』96, pp.160-148. (査読無)
14. 中澤秀雄 2011「空知旧産炭地の破綻と再生?」『地域社会学会年報』23: 17-31 (査読有)
15. 中澤秀雄 2010「産炭地研究の新たな課題 - 立坑槽が巻き終わったあとに」他 5 編 (嶋崎尚子・澤口恵一・木村至聖・西牟田真希・井上博登が執筆)『社会情報』19 巻 2号 (査読無)

〔学会発表〕(計 17 件)

1. 嶋崎尚子 2013「石炭産業における近代化の営みをいかに残すか：アーカイビングの構築と活用」第 5 回東アジア人文学フォーラム論文集(天津：南開大学, 2013 年 11 月 2 日)。
2. 中澤秀雄 2013 "Former Coalfield Regeneration: Japan's Case and Some Thoughts towards East Asian Comparison" 韓国地域社会学会大会(春川・翰林大学, 2013 年 5 月 8 日) 国際セッションでの招待講演。
3. 中澤秀雄・嶋崎尚子・玉野和志・木村至聖・森久聡・須藤直子・新藤慶・西城戸誠・井上博登・澤口恵一・山本薫子 2012「産炭地の比較社会学 I~XI」(合計 11 報告) 日本社会学会第 85 回大会(札幌学院大学, 2012 年 11 月 4 日)
4. 嶋崎尚子 2012「炭鉱遺産と産炭地研究の可能性：新たな連携をめざして」全国石炭産業

関連博物館等研修交流会「炭鉱遺産の活用と保存」シンポジウムでの招待講演(長崎市立図書館, 2012 年 11 月 23 日)。

5. 中澤秀雄 2011「開発型福祉国家の再編と地域政策」日本社会学会第 84 回大会シンポジウム(関西大学, 2011 年 9 月 18 日)
6. 中澤秀雄 2010「旧産炭地の破綻と再生?」地域社会学会第 35 回大会シンポジウム(慶応義塾大学, 2010 年 5 月 9 日)
7. 嶋崎尚子 2010「石炭産業の衰退と地域、労働者」早稲田社会学会大会(早稲田大学, 2010 年 7 月 10 日)

〔図書〕(計 6 件)

- 産炭地研究会(新藤慶編)2014『炭鉱労働の経験とキャリア 夕張炭田を中心に』科学研究費報告書(141 頁)
- 産炭地研究会(中澤秀雄編)2014『JAFCOF 活動記録 2009-2013 付・文献目録』科学研究費報告書(362 頁)
- 産炭地研究会(山本薫子編)2013『山口県宇部炭田・大嶺炭田における閉山後の再就職と炭鉱経験の意義』科学研究費報告書(82 頁)
- 島西智輝・青木隆夫 2012「夕張市の産炭地域振興事業をめぐる利害調整」(221-243 頁)
- 島西智輝 2012「住友赤平炭鉱におけるビルド・アップの帰結」(191-219 頁) 杉山伸也編『日本石炭産業の衰退』慶応義塾大学出版会
- 産炭地研究会 2011『炭鉱労働の実際 住友赤平炭の場合』科学研究費報告書(86 頁)
- 島西智輝 2011『日本石炭産業の戦後史』慶応義塾大学出版会(374 頁)

〔産業財産権〕

該当なし

〔その他〕

ホームページ等

<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~nakazawa/>

新聞記事

- 北海道新聞 2013/12/01「炭鉱はいま 主婦会爆発事故振り返る」
- 釧路新聞 2011/8/25「膨大な炭鉱資料に関心 旧産炭地研究会が初来釧」
- 北海道新聞 2011/8/24 釧路版「旧産炭地研 釧路で初調査」
- 北海道新聞 2010/9/16 空知版「早大院生 空知の炭鉱調査」
- 福島民報 2010/7/10「国内・南ウエールズの教授ら 地域再生策探る」
- 宇部日報 2010/3/13「同じ”炭都”、歩み知ろう」
- 北海道新聞 2009/8/8 空知版「旧産炭地再生 シンポ 官民連携 英国に学べ」

6. 研究組織

(1)研究代表者

中澤 秀雄 (NAKAZAWA, Hideo)
中央大学・法学部・教授
研究者番号：20326523

(2)研究分担者

嶋崎 尚子 (SHIMAZAKI, Naoko)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：40216049

玉野 和志 (TAMANO, Kazushi)
首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号：00197568

西城戸 誠 (NISHIKIDO, Makoto)
法政大学・人間環境学部・教授
研究者番号：00333584

島西 智輝 (SHIMANISHI, Tomoki)
香川大学・経済学部・准教授
研究者番号：70434206

木村 至聖 (KIMURA, Shisei)
甲南女子大学・人間科学部・講師
研究者番号：50611224

大國 充彦 (OKUNI, Atsuhiko)
札幌学院大学・社会情報学部・教授
研究者番号：40265046

澤口 恵一 (SAWAGUCHI, Keiichi)
大正大学・人間学部・教授
研究者番号：50338597

新藤 慶 (SHINDO, Kei)
群馬大学・教育学部・准教授
研究者番号：80455047

井上 博登 (INOUE, Hiroto)
札幌国際大学・観光学部・講師
研究者番号：10612947

山本 薫子 (YAMAMOTO, Kahoruko)
首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授
研究者番号：70335777

(3)連携研究者

なし